



超乳の檻



超乳の檻

この光景が見えて
いるだろうか…

うあっ♡

あっ♡

はっ♡

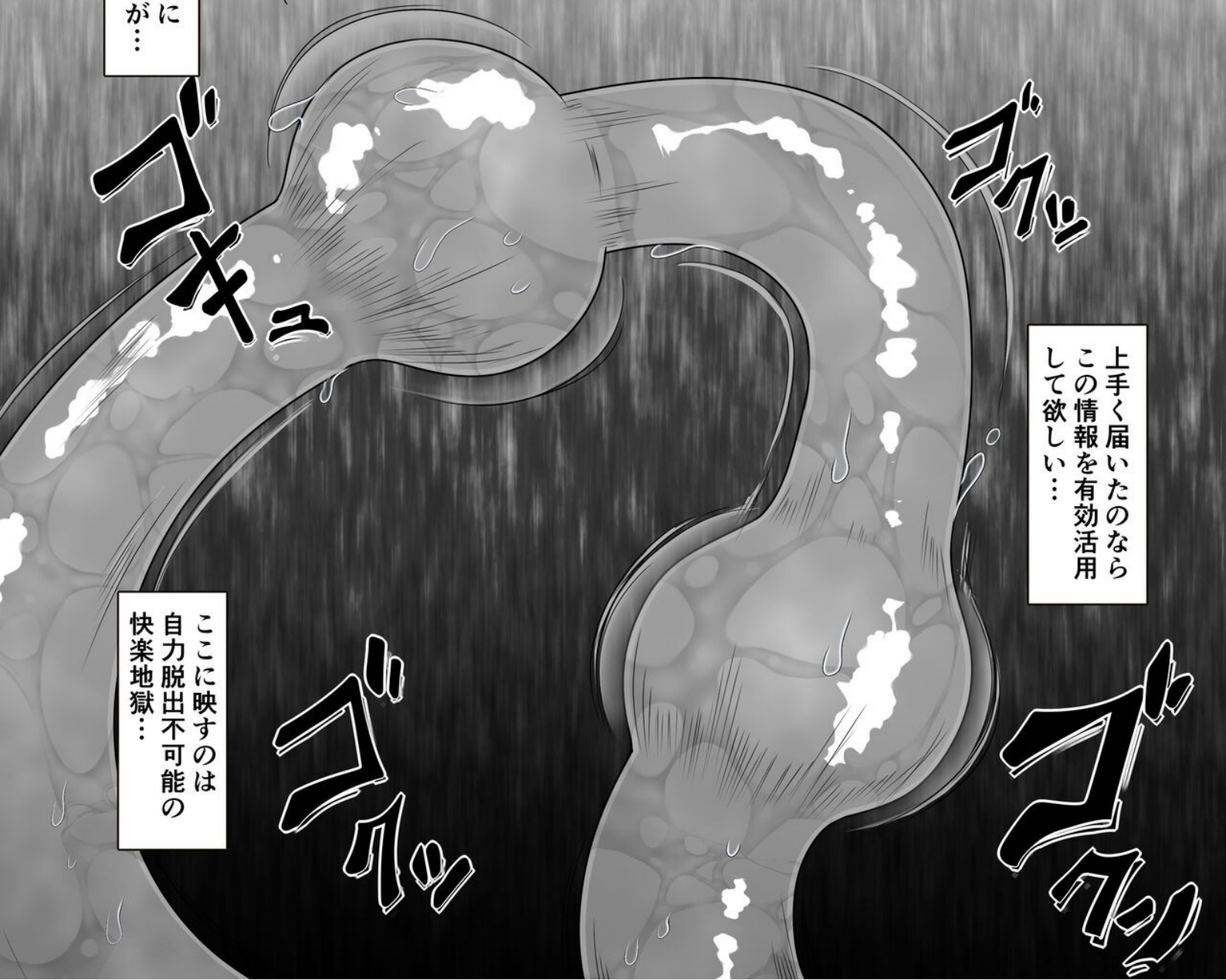
あっ♡

んっ♡

意識が朦朧としている故に
成功しているか判らないが…

上手く届いたのなら
この情報を有効活用
して欲しい…

ここに映すのは
自力脱出不可能の
快樂地獄…



ゴボ

無様にも捕らわれた
体を変異させられた
Sランク魔導士
最期の実録メッセージ

おっ♡

んおっ♡

ほ♡

おん♡

おっ♡

おっ♡

ゴボッ

ゴボッ

アッ

アッ

ギョ

ギョ

仮称名・迷宮の肉檻
その凄惨な記録である



迷宮の肉檻の目的

んっ♡
んっ♡
んっ♡

それは迷宮で活動する
女性冒険者を捕らえ

体を改変し体液
主に母乳を啜る事だと
思われる

現に今も大きく変異された
胸を揉みながら吸いついて

おっ♡

ブルブル

ギョッ

おっ♡

ギョッ

ブルブル

ブルブル

母乳を延々と
絞りだされている

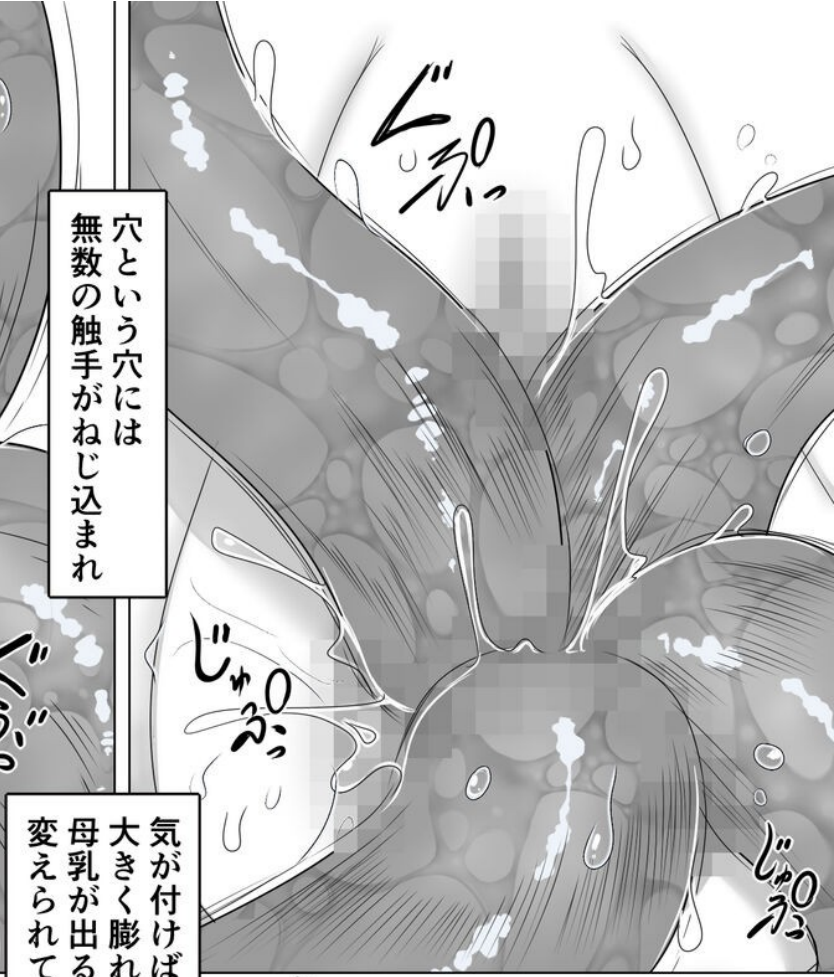
んっ♡
んっ♡

ギョッ

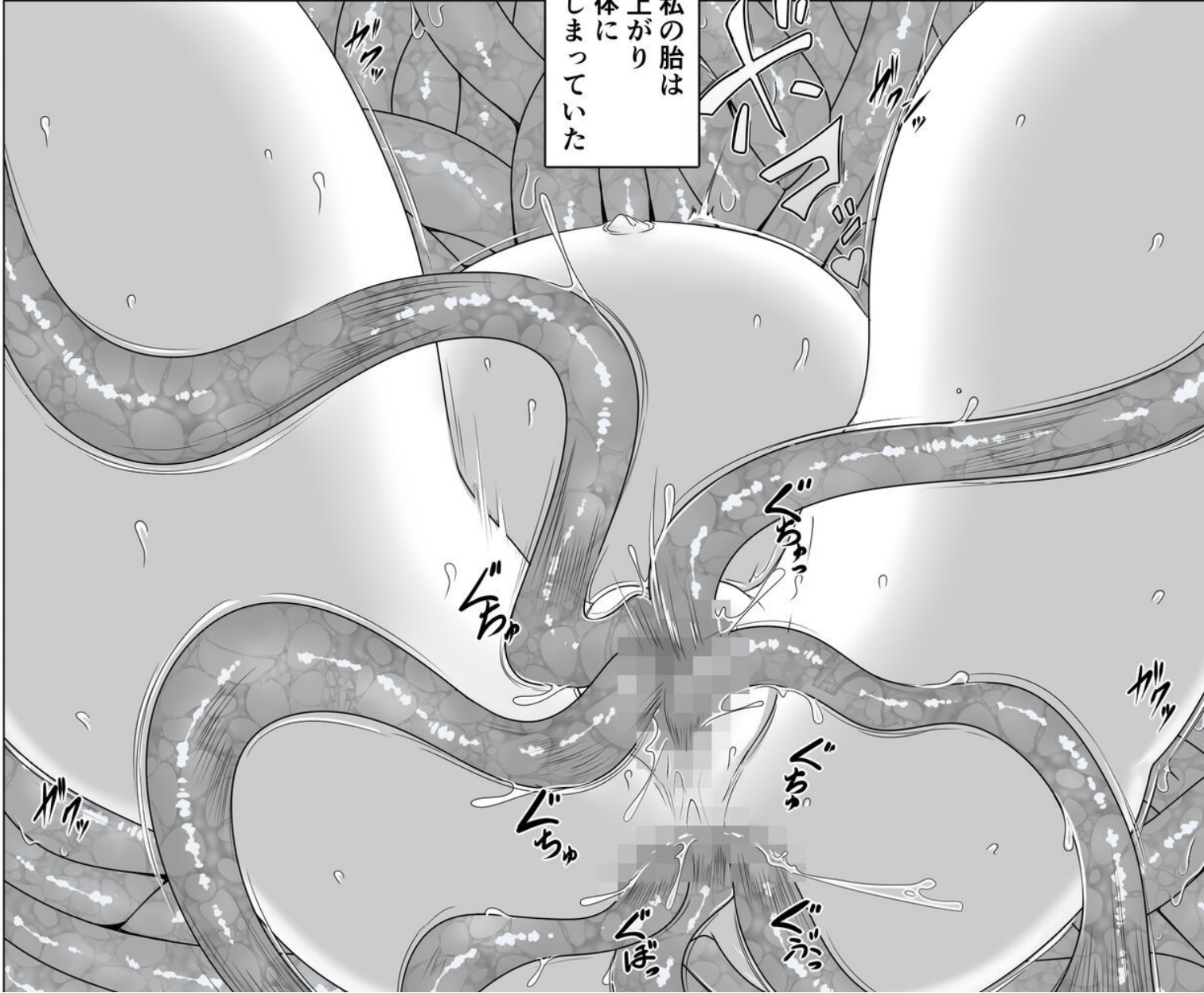




穴という穴には
無数の触手がねじ込まれ



気が付けば私の胎は
大きく膨れ上がり
母乳が出る体に
変えられてしまっていた



私はこの危機を知らせるべく
魔術を構築していたが
快楽刺激による集中力の乱れと
絶頂による意識喪失で
周回自動記録を発動後
暫くの間まともに
魔術を発動できなかった

この映像は
私が堕ち続けていた間
新たな犠牲者が
私と同じになるまでの記録

気を持ち直し
魔術を発動した際
分割したまともな精神の私が
解説していこうと思う

迷宮の肉檻は
ダンジョンの落とし穴に
体をつなげ

落ちてきた冒険者を
肉檻が出している
液体のたまり場に
落下させる



深く沈んだ冒険者は
当然浮き上がろうと
もがくのだが...

その体液は
瞬く間に衣服を溶かし



更に体を痺れさせ



あられもない姿となった
冒険者の自由を奪い
抵抗できないようにした



溺れる寸前までになつた冒険者を

いぼ

触手が絡めとり

引き上げると他の無数の触手が冒険者に群がっていく

その状況に冒険者は何もできず...

ヤッ

グホッ

ホッ

ホッ

ホッ





なすが儘に
体に群がられ

いや!!

くっ!!

ぎゅ...

ズズ...

ぐちゃ

数分も
しないうちに



体をガッチリと
固定されてしまう

や...

ぐちゃ

ぎゅ...

あああ...

ぎゅ...

ぐちゃ

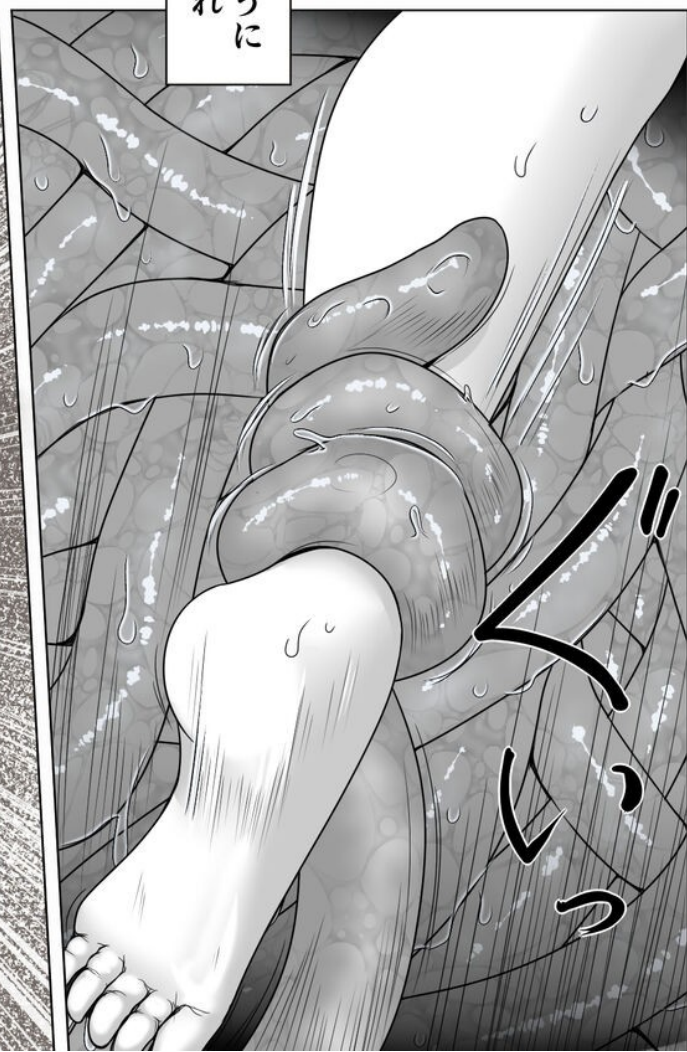
ただでさえ痺れているのに
両腕と胸を固定されて
しまつては彼女に
逃げ場はもうなかった



下半身も同じように
触手に絡めとられ



触手は体の中にもまで
無遠慮に浸食する



一切配慮の無い
触手の責め

おっ

んあ

は

あ

ゴリョ

グホッ

どれだけ嫌悪しようと
屈辱が溢れようとも
体は無理矢理
快楽でぐちゃぐちゃに
されていった

い

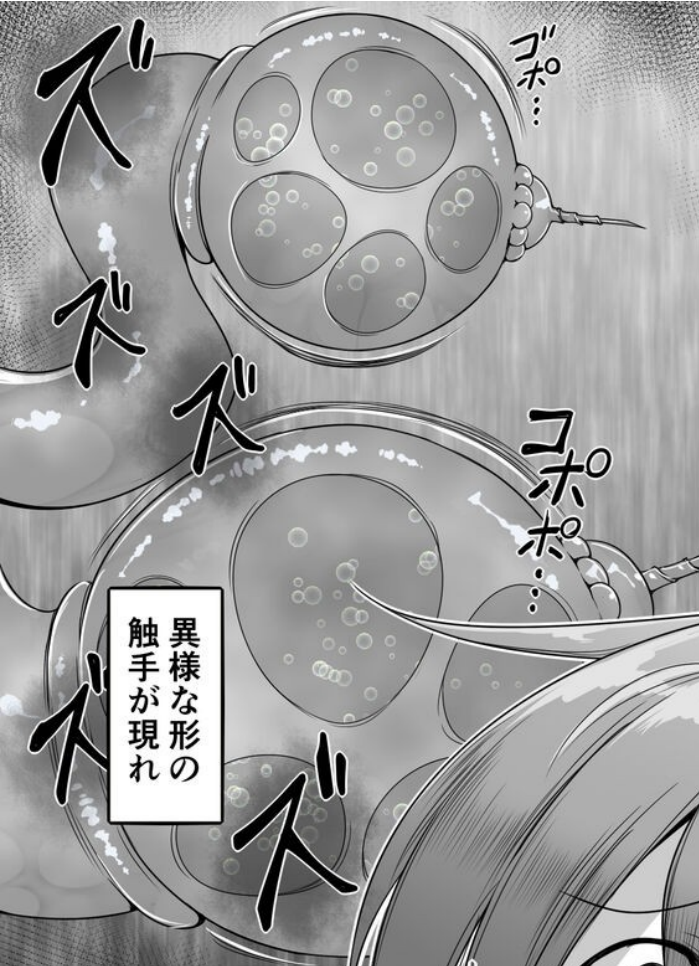
や

グホッ

んひ

グホッ

グホッ

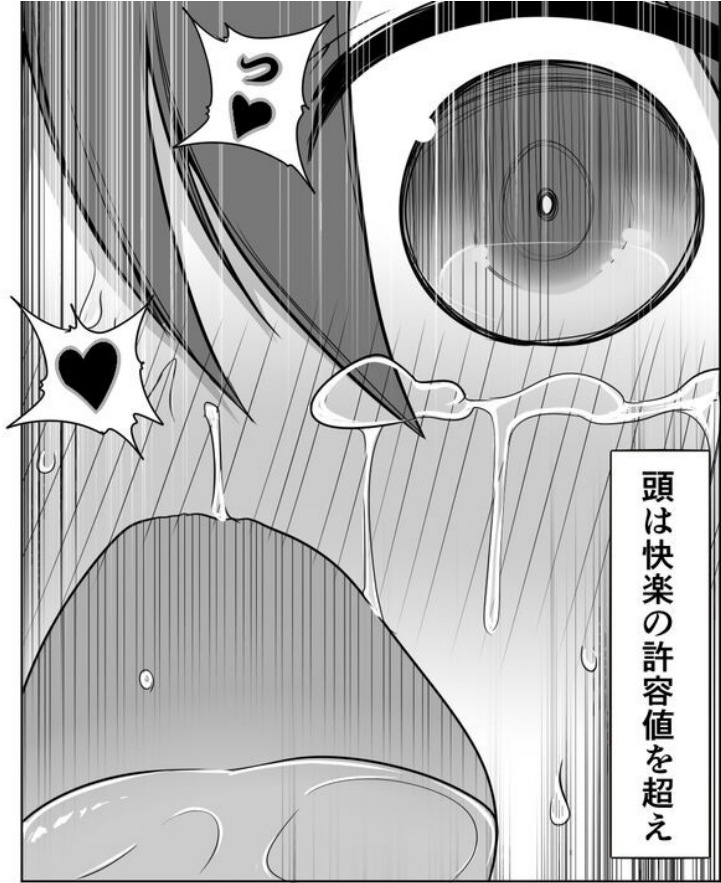


異様な形の
触手が現れ

そこに
追い打ちを
かける様に



両乳首に差し込まれる



頭は快樂の許容値を超え



そして何かを
ドクドクと流し込まれ

体が干からびるのではと
思うほどに



絶頂が止まらなくなる



その間にも
乳房はどんどん
大きくなり…



元のサイズを大きく超える

ブルル

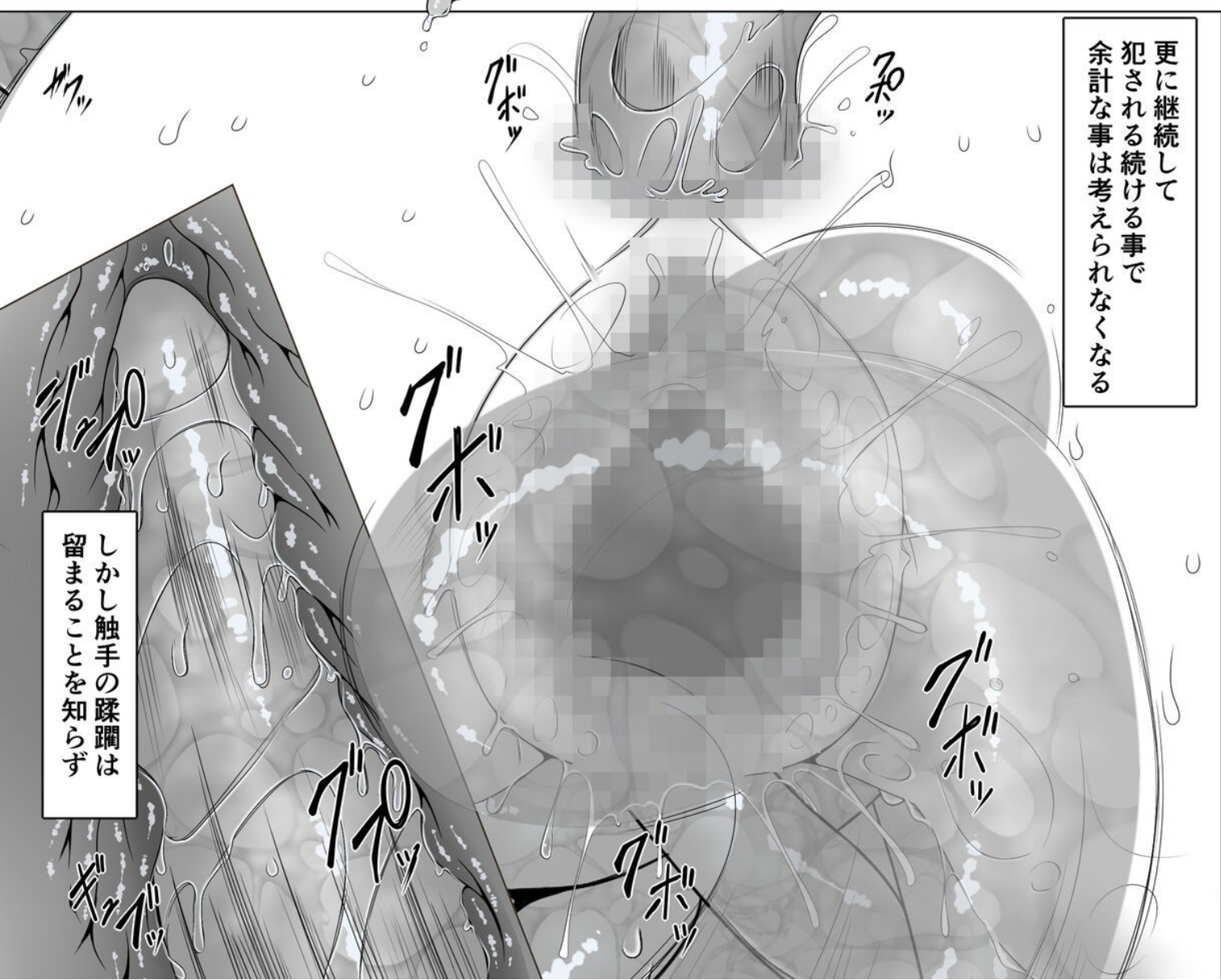
あ

あ

あ

触手が乳首から抜かれても刺激は収まらず

ブルル



更に継続して犯される続ける事で余計な事は考えられなくなる

しかし触手の蹂躞は留まることを知らず

グホッ

グホッ

グホッ

グホッ

グホッ

グホッ

ギョッ

更に新たな触手が
現れると

ぐはぁ

胸を包み込み
更には吸いつき

んっ♡

絶頂を
誘発する



先に注ぎ込まれた
液体と相まって
ぱんぱんに膨れ上がった
乳房とカチカチに硬くなった
乳首は弄ばれ





あ...

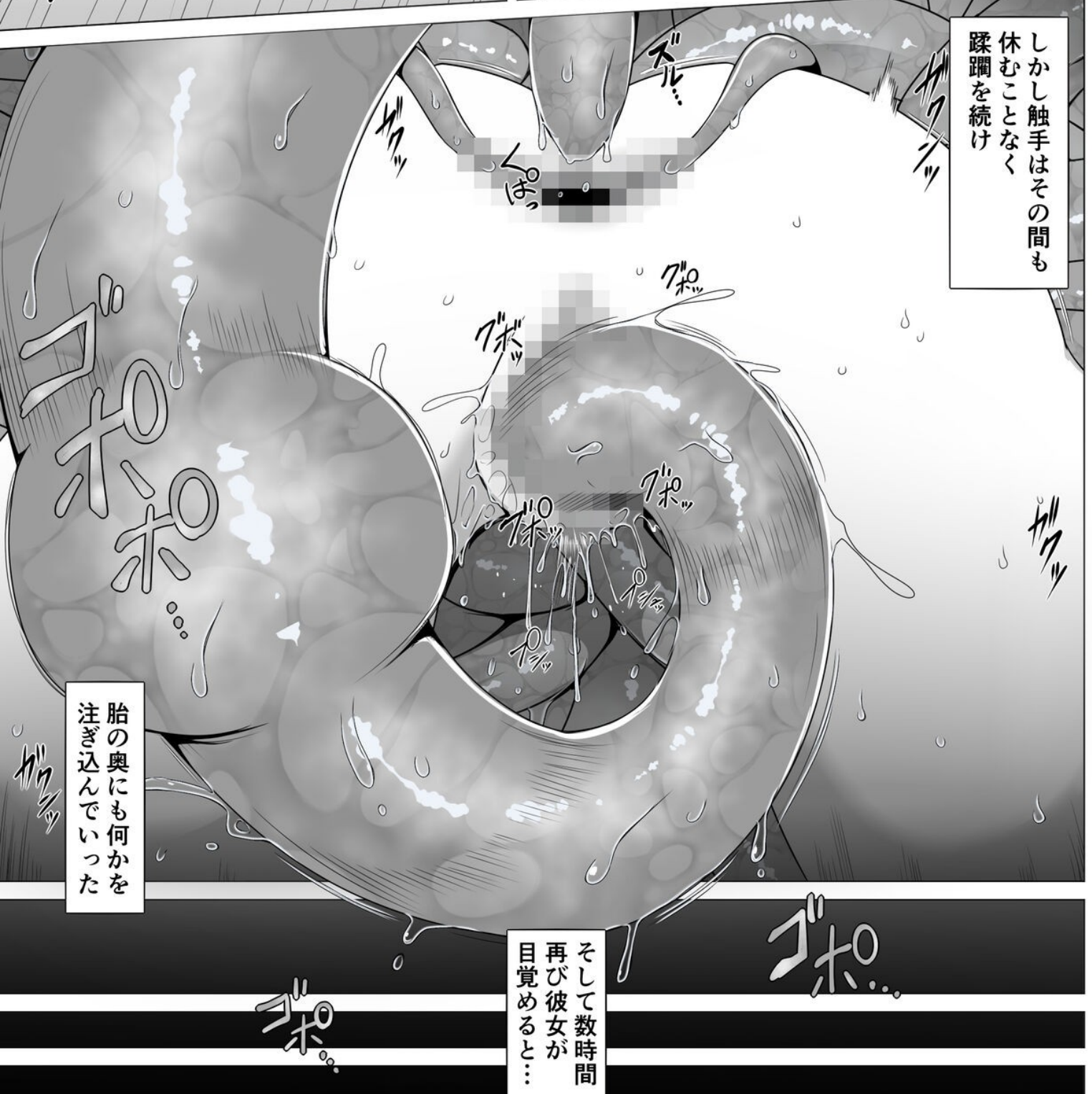
あ...

は

は

意識は限界を迎え
とうとう陥落する

あ...



しかし触手はその間も
休むことなく
蹂躪を続け

胎の奥にも何かを
注ぎ込んでいった

そして数時間
再び彼女が
目覚めると...

ゴホ...

ゴホ...



あああ!!

あああ

私も自身にされた時は
目を疑い混乱してしまった
しかしここからが
肉檻の狙いだった

顔の倍...
否、それ以上に
胸部が肥大化されていた



あ

あ

くちゅ

うぞ

うぞ

ぐんぐん

ぐんぐん

ぐんぐん

くちゅ

くちゅ

ぐんぐん

くちゅ

気絶している間にも
体の開発は続けられていた事で
肥大した乳房は吸われ
撫でられるだけで
絶頂するレベルに達していた

ぐんぐん

ぐんぐん



ギ
ツ
ツ

お

あ

は

あ

ギ
ツ

ギ
ツ
ツ

何度もイクも
刺激ですぐ目覚め
そして再びイッて
果てて目覚める

そこから延々と続く
乳房責め

ギ
ツ
ツ

ツ



不快であり快感
苦痛であり幸福

相反する思考で
脳が溶けるような
刺激が続き
狂い死しそうになる

ぐっ
ちゅっ

ぐっ
ちゅっ

ぐっ
ちゅっ

ちゅっ

ちゅっ

ちゅっ
ちゅっ

ぐっ
ちゅっ

ちゅっ

ちゅっ
ちゅっ

ぐっ
ちゅっ

ぐっ
ちゅっ

しかしそれすら
許す間もない程
責めが続く

体の水分が無くなるのではと
思う位イキ続け
そしてついに胸の内側から
疼いていた物が爆発する

あ♡

あ♡

あ♡

あ♡



あ？

ああ？

これこそが肉檻の狙い
人を改造し母乳を啜る

こうして私と同じ
哀れな贄は家畜となり
母乳を絞られ続けるのだ

ジュジュ
ジュジュ
ジュジュ

ジュジュ
ジュジュ
ジュジュ

お♡
お♡

お♡
お♡

何度も意識を飛ばすも
繋いで記録したこの情報

どうにか役に立てて
欲しいと願う…

調査に乗り出して
愚かにも捕らえられた
私にできるのはここまでだ

出来ればあの冒険者も
助けられれば良かったが
肉檻は母乳と一緒に
魔力も吸うらしく
記録だけで精一杯だった

この情報も外に
伝えられるかすら
分からない

息ができるなら
何処かに外につながる
空気穴があると
思っているが…

魔力で編んだ蝶ゆえ
肉檻に捕まえられて無駄に
なるかもしれない
だがもし届いたら
これ以上犠牲が出ないよう
対策して欲しい

こうして彼女は
情報を送り出して
再び搾乳の快楽に
堕ちていった

彼女の犠牲と
引き換えに
この話は周知され
冒険者達の教えとなり
終わる…

：はずであったが
奇跡が起きた

彼女の情報は無事届き
冒険者ギルドは迷宮の肉檻を
S級危険モンスターに指定し
緊急討伐同盟を設立
半年近くの調査と追跡で補足
そしてついに討伐に成功した

その際捕らわれていた者を
幾人か救出する事に成功
その中には情報を提供した
彼女も含まれていた

幸いにも肉檻に提供されていた
栄養で命に別状はなかった
しかし肥大した胸は戻らず
快楽で崩壊した精神も
完治まで時間がかかった：

彼女には
この情報による
褒賞と慰労費が
支払われたが
冒険者に
戻る事は
出来無かった：



それから
しばらくして…

彼女は同じ被害に
あった者を保護する
場を作り上げ
その胸を使って
稼いでいた

あはっ♡

アッッ

あんっ♡

アッッ

んふっ♡

賛同する者も
あの肉檻に性格を
変えられたのか
それとも嵌って
しまったのか

特に不満もなく
新たなサービス店で
愉しく過ごすのであった